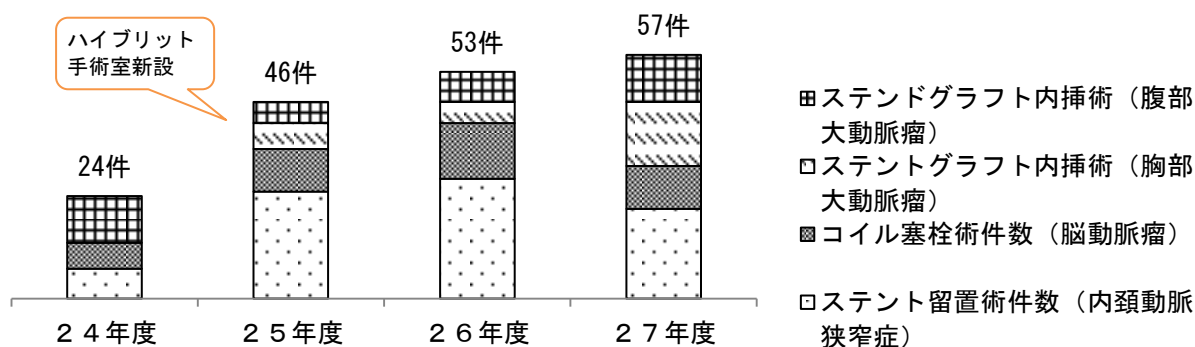


第二期中期目標期間における実績例

1 医療

【血管病医療】ステントグラフト内挿術等実施件数

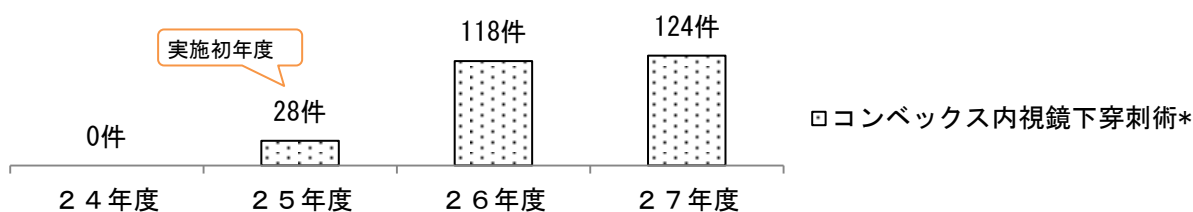
ハイブリッド手術室*を活用した腹部並びに胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術など、低侵襲で効果的な治療を実施し、実績が増加した。



* レントゲン透視機器を備えた手術室

【高齢者がん医療】コンベックス内視鏡下穿刺術*実施件数

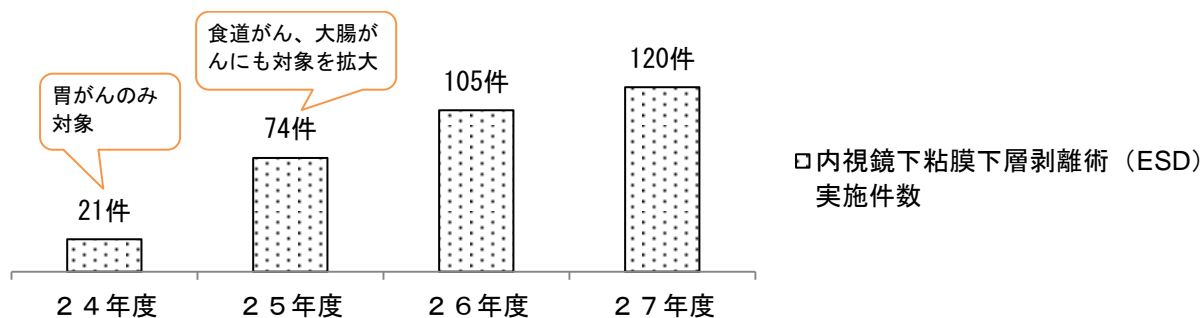
最新機器を用いたがんの鑑別診断であるコンベックス内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）を実施し、実績が増加した。



* 開胸・開腹せずにごんの確定診断を行う方法

【高齢者がん医療】内視鏡下粘膜下層剥離術*実施件数

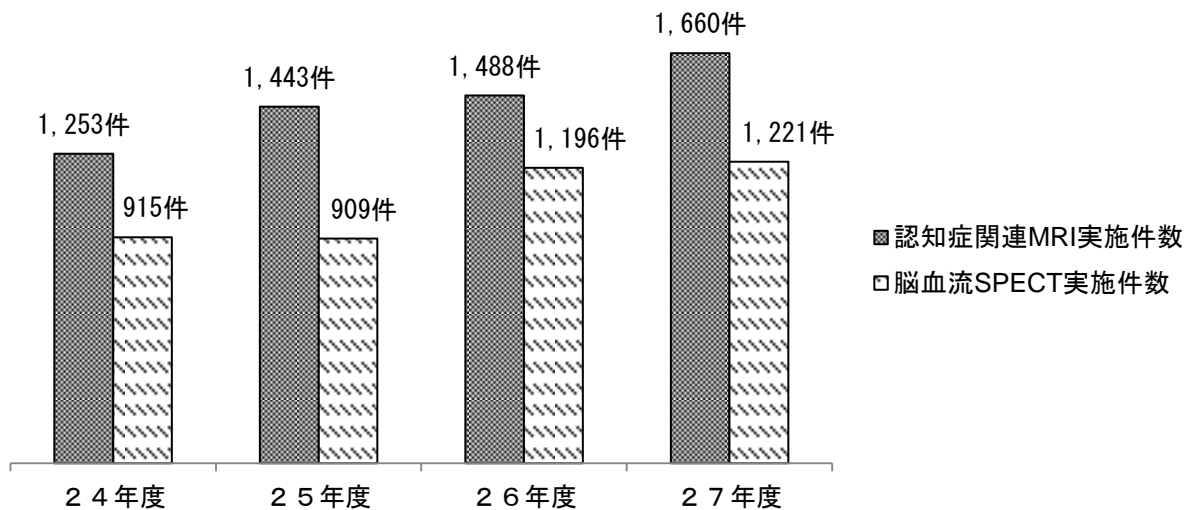
早期の胃がんや食道がん、大腸がんに対し、低侵襲な内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に実施し、実績が増加した。



* 開腹せずに内視鏡のみで病変を一括切除し治療する内視鏡治療

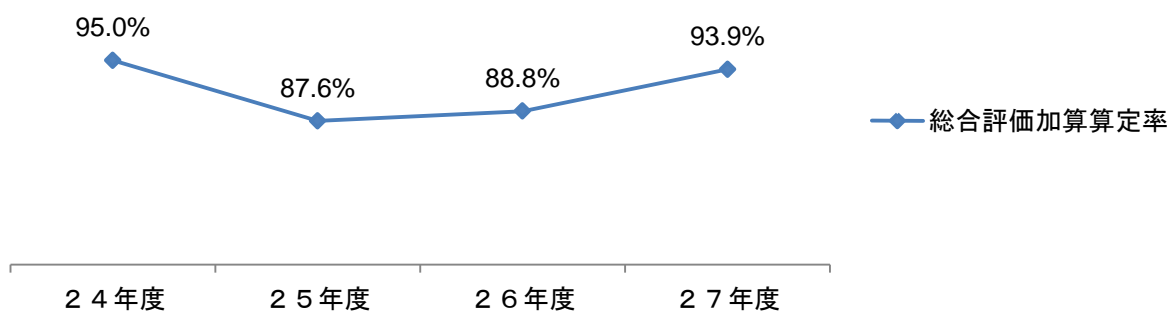
【認知症医療】MRI、SPECT実施件数

認知症関連MRI及び脳血流SPECTの実施件数を着実に伸ばし、認知症の早期診断の推進及び診断精度の向上に努めた。



総合評価加算算定率*1

高齢者総合機能評価(CGA)*2に基づき、患者に応じた適切な治療、早期リハビリテーションを実施し、早期離床、早期退院を図り、退院後のQOLを確保した。

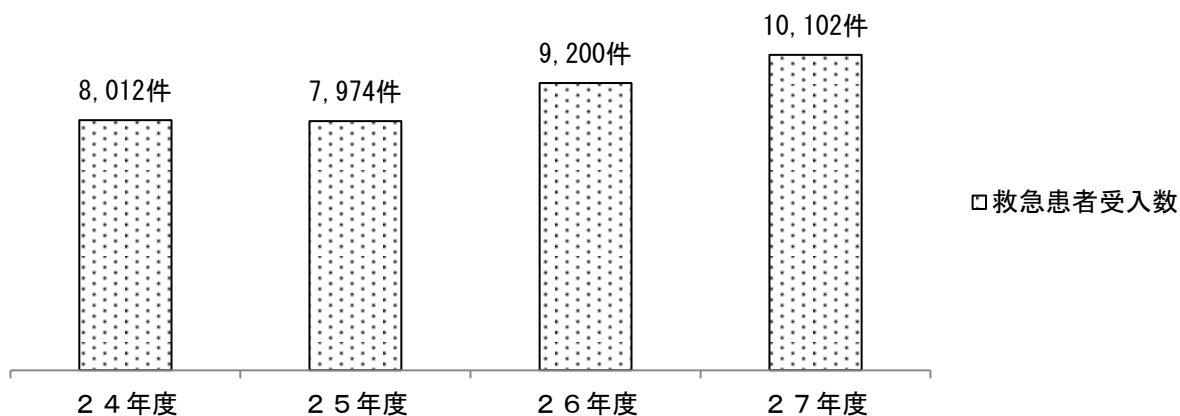


*1 総合評価加算算定率=総合評価加算算定件数/退院患者数

*2 高齢者の状態について、医学的評価だけでなく、生活機能、精神機能、社会・環境の3つの面から総合的に捉えて問題を整理し、評価を行うことで、生活の質(QOL)を高めようとする方法

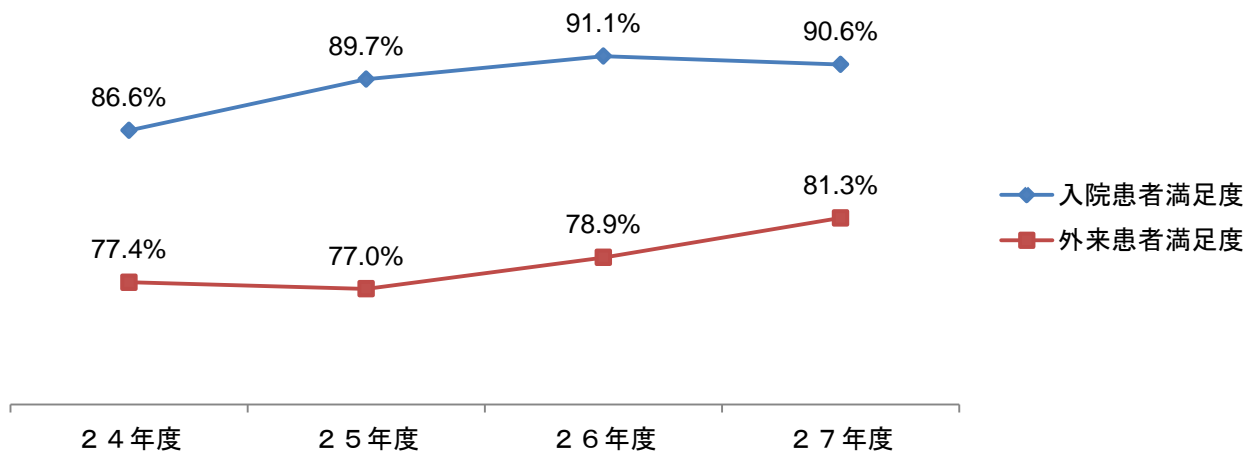
救急患者受入数

救急受入体制の強化や受入状況の検証、地域医療機関との連携等により、救急患者の受入れを着実に実施した。



患者満足度

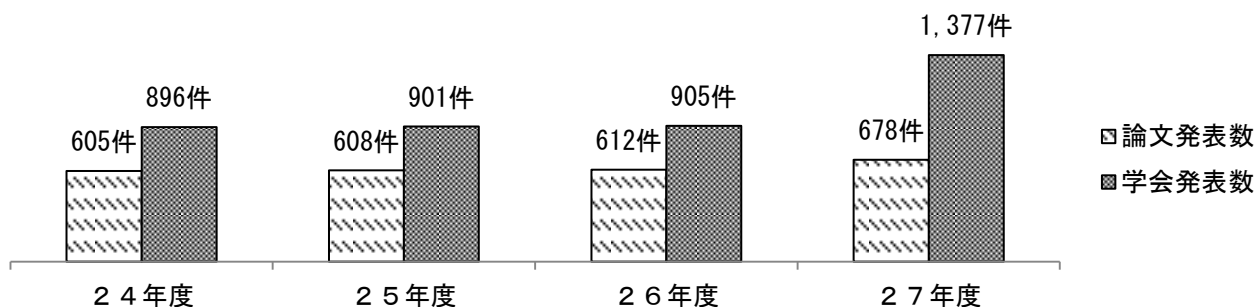
患者満足度調査の結果等を踏まえて改善に取り組むなど、患者サービスの向上に努めた。



2 研究

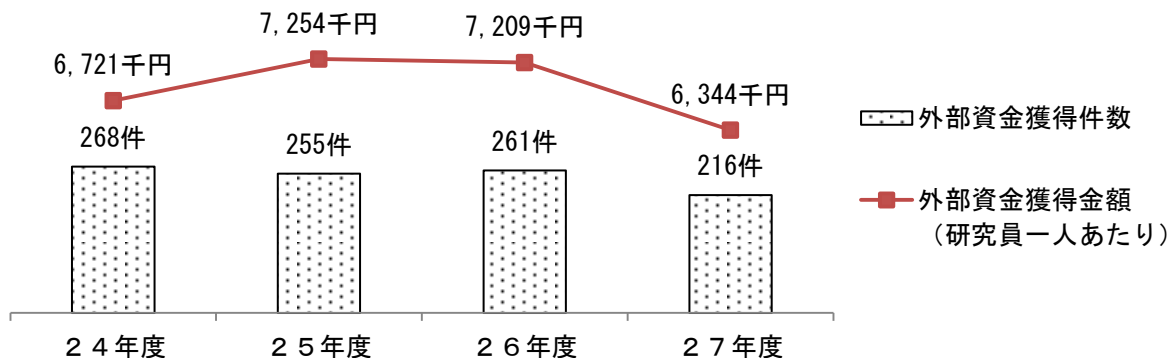
論文及び学会発表数

米国老年学会、日本老年医学会をはじめ、国内外の学会に積極的に参加し、研究成果の発表を着実にを行った。



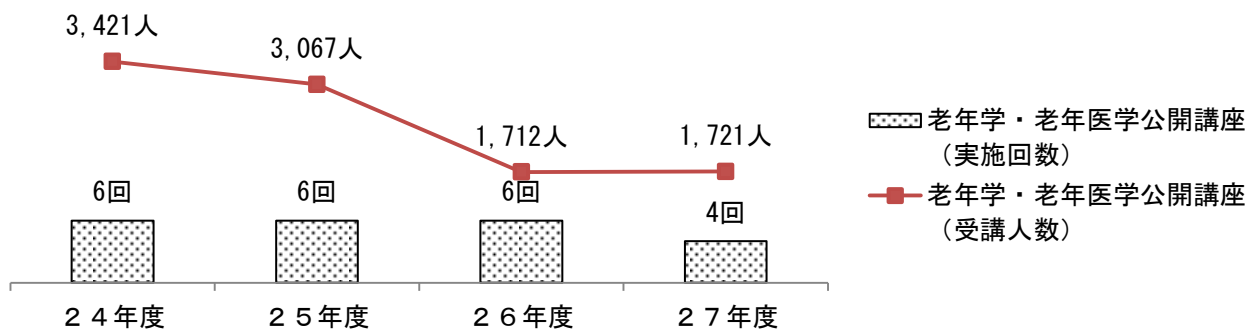
外部研究資金獲得件数及び金額

文部科学省や厚生労働省などの研究費補助金への応募や共同研究・受託研究を推進し、外部研究資金の積極的な獲得に努めたが、競争率の上昇等により27年度は件数・金額ともに実績が低下した。



老年学・老年医学公開講座の開催

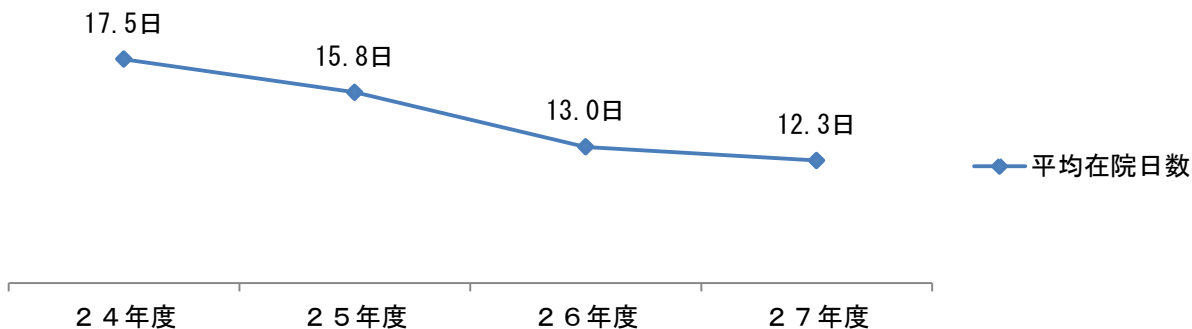
老年学・老年医学公開講座の開催やホームページの活用、研究所 NEWS の発行等により、研究成果の都民への普及を図った。



3 業務運営等

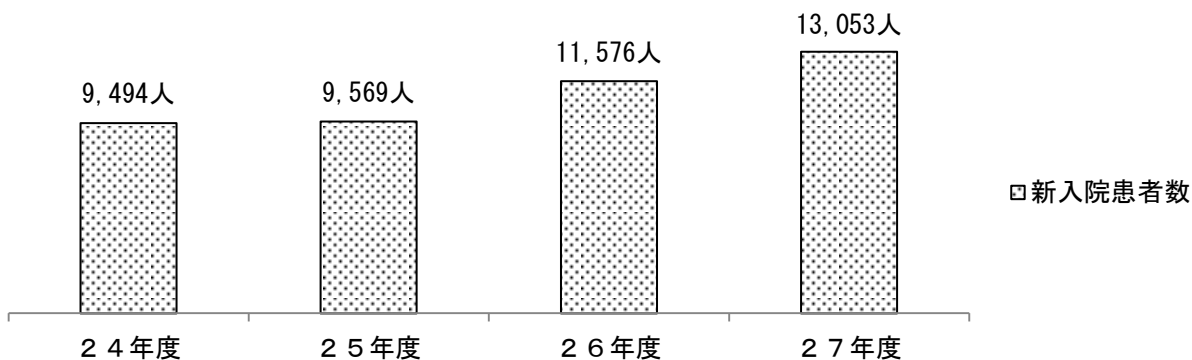
平均在院日数

地域の医療機関との連携強化や適切な退院支援の実施に取り組み、平均在院日数の短縮を図った。



新入院患者数

救急診療体制の強化による救急患者の積極的な受入れなどにより、新入院患者の確保に努めた。



病床利用率

平均在院日数の短縮を図りつつ、新入院患者の確保に努めたことにより、病床利用率が向上した。

